

「デンソーはあとふるポイント制度」※ によるエコ通勤の促進

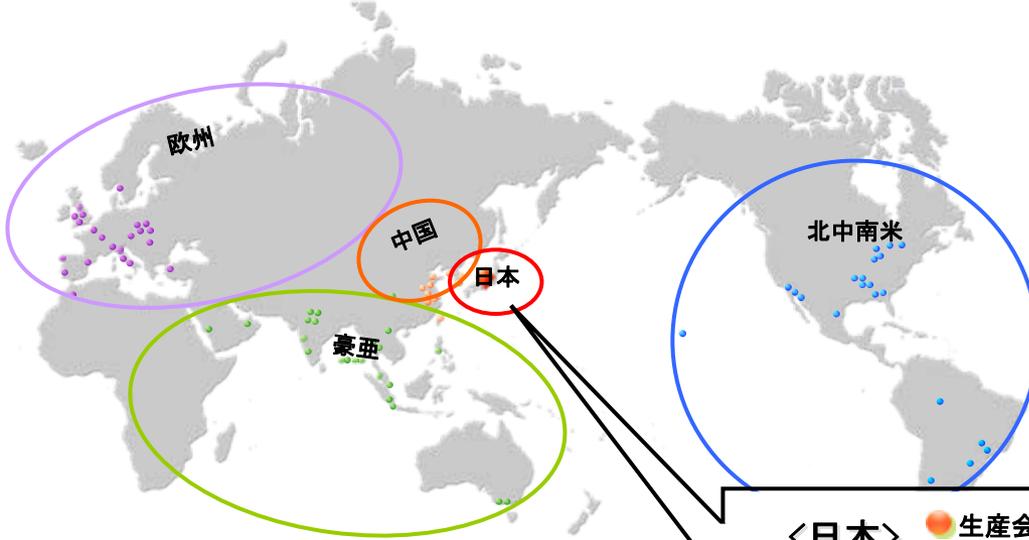
※デンソーはあとふるポイント制度：

デンソー独自の社員一人ひとりの社会貢献活動を応援する啓発制度

2012年11月20日

株式会社デンソー
総務部 社会貢献推進室

<グローバル>



資本金	1,874億円			
売上高	連結	3兆1,546億円	単独	2兆316億円
当期純利益	連結	893億円	単独	792億円
従業員数	連結	126,000名	単独	38,000名
国内事業所数	製作所 8、研究所1、支社1、支店3			
連結子会社数	188			

・先進技術・製品を世界中の自動車メーカーに供給
 ・世界各地のステークホルダーとの共存・共栄を目指す

<日本>

- 生産会社
- その他



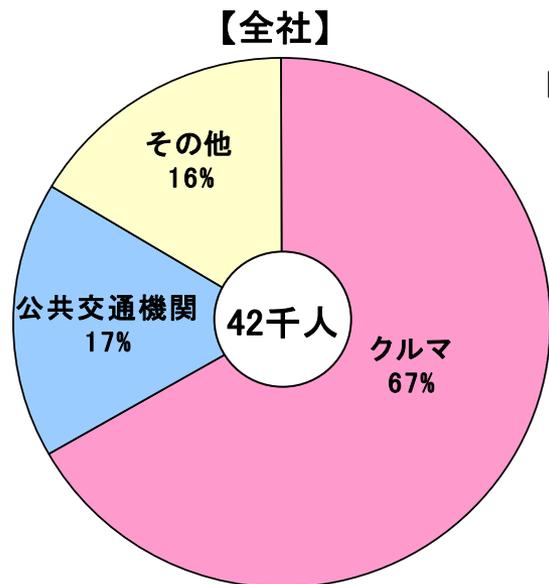
<愛知・三重>

- ◆ 本社
- 製作所
- 研究所・テストコース

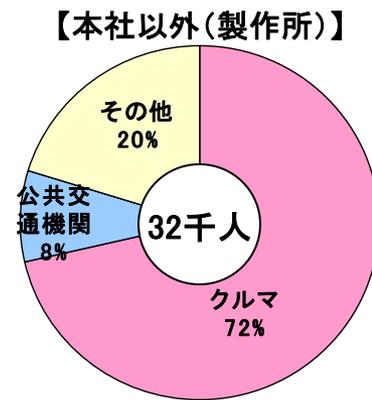
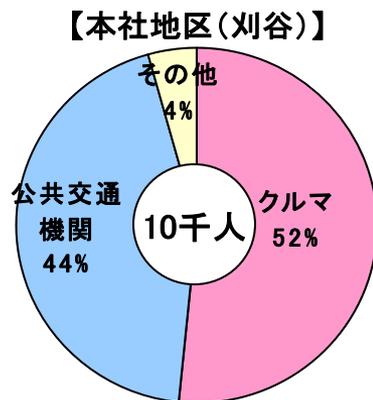


・三河地方を中心に工場立地し日本全国に供給
 ・地域共生に取り組み、地元で愛される企業を目指す

社員の通勤内訳を全社／拠点別に調査



地区別に内訳を調査



	本社	本社以外(製作所)
公共交通機関の利便性	・JR刈谷駅、名鉄刈谷駅から徒歩7分	・最寄り鉄道駅が遠い ・駅からの交通手段を会社バスに頼る
社員の属性	・事務・技術者中心 ・夜勤者少ない	・工場勤務者中心 ・夜勤者多い
通勤状況	公共交通機関割合高い	クルマ通勤割合高い

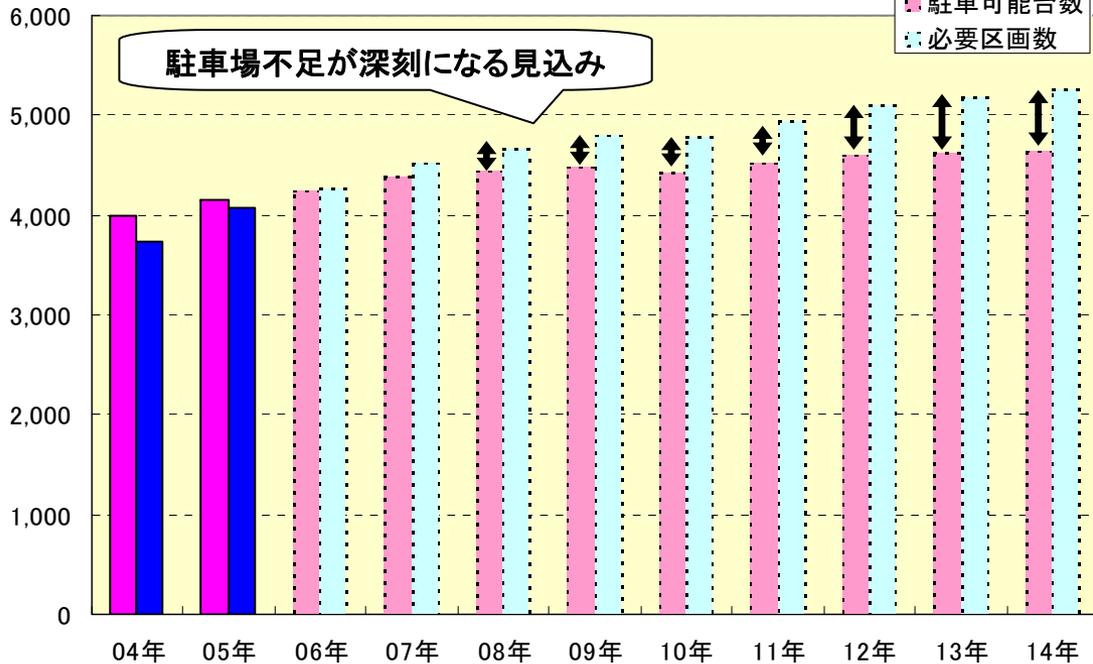
・大都市郊外に本社・製作所が立地
・自動車産業をサポートする業種



従来より全社的にクルマ通勤が多いが、脱クルマ通勤(エコ通勤)へ切替の可能性が高いのは本社地区

(1) 駐車場区画確保上の課題

◆本社駐車場過不足予測(2006年当時)



<主な要因>

- 従業員数の増加
- 新規借地困難(会社周辺が住宅地のため)

駐車場が十分に確保できない！

(2) 地域共生の観点からの課題

◆クルマ通勤に対する地域住民の声

- ・「朝夕の渋滞や生活道路への迂回を何とかしてほしい」
- ・「通勤途上の交通事故が心配」
- ・「登園・登校時の通行量が多く子供が心配」
- ・「駐車場でのエンジン音がうるさい」
- ・「駐車場での排気ガスが気になる」



【DENSO VISION 2015より】
あらゆるステークホルダーを大切にして、
社会より信頼・尊敬される会社を目指す

【デンソーグループ企業行動指針より】
社会との共生を目指して、
あらゆる地域で社会貢献に努める

地域にやさしい通勤環境の実現を！

「駐車場区画確保上の課題」「地域共生の観点からの課題」を解決するための一策として、脱クルマ通勤(エコ通勤)への転換を促進したい

狙い

- ・本社地区の駐車場不足を社員の自主的な取り組みで解消したい
- ・「エコ通勤」をはじめエコ活動全般に何らかのインセンティブをつけて啓発したい
- ・社員一人ひとりの活動により、ステークホルダーから信頼される企業になりたい

「自分のために」「続けられる」
社会貢献できる仕組み作りを

<キーワード>

- ◆うれしさ・お得感 = インセンティブ
- ◆できることから少しずつ = 気軽さ
- ◆自分と周囲のために = 健康・エコブーム

全ての要素を取り入れた

「デンソーはあとふるポイント制度」誕生

2006年12月 まず環境分野からスタート

2010年 8月 全ての社会貢献活動を対象に

社員一人ひとりの自発的な社会貢献活動を



<エコ通勤>



<ごみ拾い>

ポイントを通して

地域社会と「うれしさ」の共有につなげる



<商品との交換>



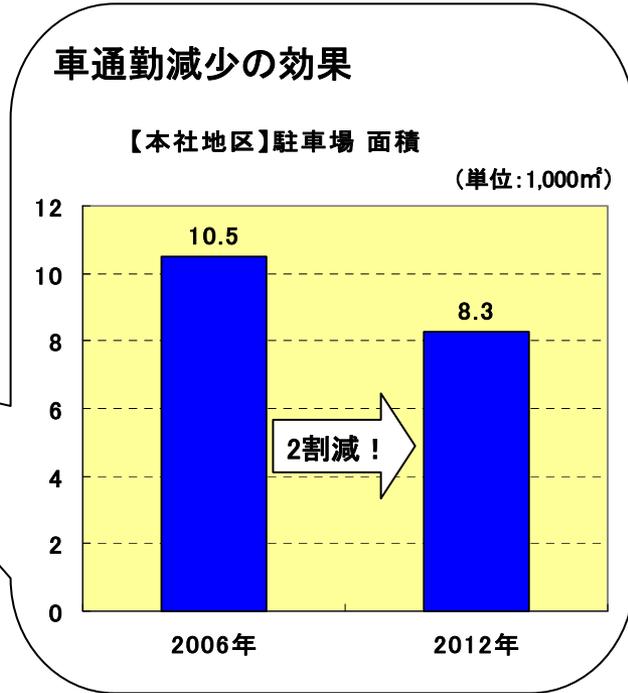
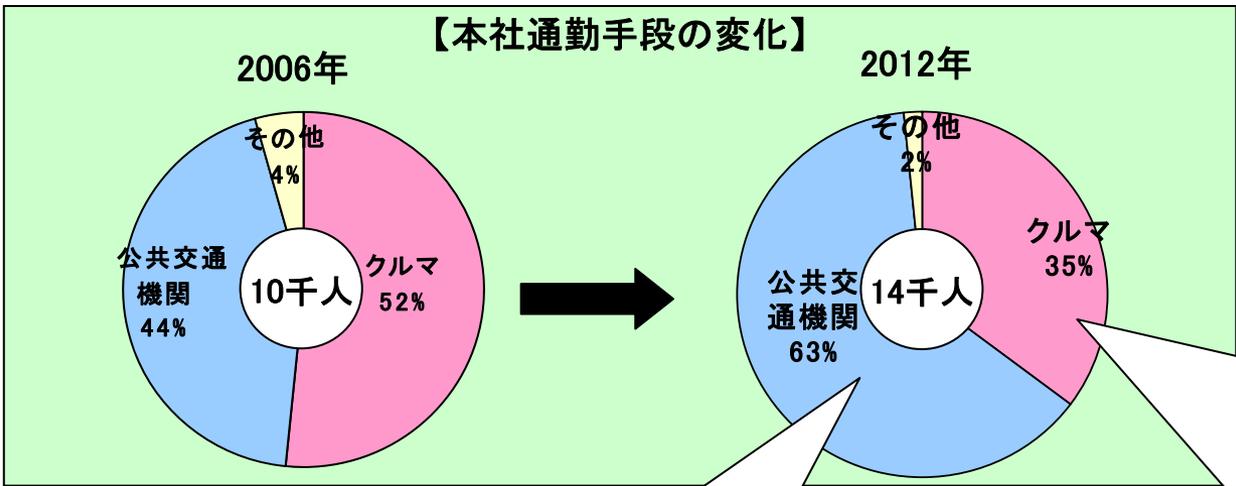
<はあとふる基金※への寄付>

自宅から勤務地までの通勤距離2.5km以上をエコ通勤する
→ 5ポイント発行!

※デンソーはあとふる基金とは・・・
社員の給与天引き等により積み立てた基金を社会貢献の目的で拠出する制度

クルマ通勤者割合の低減を目指し、社員へのポイント付与制度を企画し運用開始

制度利用促進のため、キャラクターを活用した社内PRや切り替えボーナスポイント発行など実施
 →エコ通勤申請者は全社で850名を超えた



参加者の感想

- ・ 動機がCO2削減だけだと長続きしないが、健康のためと思うと頑張ることができます (本社・技術系、40代男性)
- ・ 自転車通勤に代えましたが、渋滞による「イライラ」がない。思っていたより「楽」で、エコ通勤を楽しんでいます (本社・技術系、40代男性)
- ・ 体重10kg減！チャレンジした甲斐がありました (西尾・製造系、40代男性)
- ・ 朝夕の適度な運動となり、夜もぐっすり眠れ、業務効率も上がったように思います (阿久比・技術系、20代男性)
- ・ 電車の乗車時間30分を、英語の勉強や普段なかなか時間を割けない読書の時間に活用でき、有意義です (大安・事務系、30代男性)

更に、期間限定ポイント2倍キャンペーンの実施など、裾野拡大に努めている

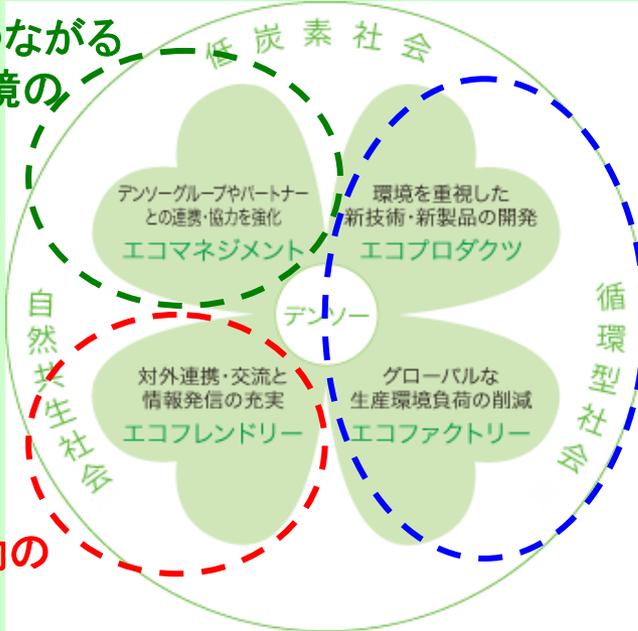
- ・ 「エコのため」よりは「健康のため」にエコ通勤に切り替えた人や、ポイント制度を楽しみながら活用する人が多数
- ↓
- ・ 当初の狙い(キーワード)「自分のために」「続けられる」社会貢献できる仕組み作りは一定の成果を上げた
 - ・ 「エコ通勤」を始め、社員の社会貢献をサポートするポイント制度が定着した

今後の課題・重点施策

- ・ 「健康のために、楽しみながらエコ通勤しましょう！」という呼びかけの継続
- ・ ポイント制度そのものの社員認知度・共感度向上によるエコ通勤者の増加
- ・ ポイント還元交換商品の内容充実、エコ通勤用グッズの拡充
(現状はパスケースのみ → 自転車用ズボンベルト(裾バンド)、ズボンクリップなど)
- ・ 他部署との連携による「エコ通勤」のしやすさ向上
(駐輪場の拡充、フレキシブルな通勤手段変更の運用検討など)

デンソーエコビジョン2015環境方針

エコにつながる
職場環境の
実現等



環境に配慮した
技術開発・商品化

エコ通勤の
促進

1. グローバルな視点からデンソーグループの総智・総力を結集し、環境経営の強化に努める(エコマネジメント)
2. 製品の製造、市場での使用、廃棄に至るすべての段階において、トータルな視点で、環境を重視した開発・設計、生産活動を行う(エコプロダクツ、エコファクトリー)
3. 業種などの枠を超えた対外連携ならびに情報発信に積極的に取り組むとともに、すべてのステークホルダーとのコミュニケーションに努める(エコフレンドリー)

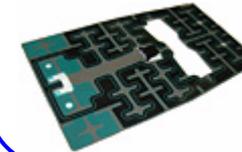
小型・軽量化



ディーゼルエンジン用
燃料噴射装置部品
のコモンレール



車両室内エアコン用
薄型熱交換器



エアバッグ用乗員
検知センサ

燃費向上



アイドルストップ用
エンジン始動時の
スタータモータ装置

製造負荷低減



車両姿勢制御用
ジャイロセンサ

デンソーは、エコ通勤促進に並び、地球温暖化防止に寄与する「電動化、燃費改善・CO2削減」をテーマとした技術開発・商品化を進め、持続可能な社会を目指しています